



町会は「実験の場」 協働で進んだ水害対策

協働パターン 町会とNPOと行政など



概要

主体者名称	東新小岩七丁目町会				町会設立年	1965年	
協働先	NPO 法人ア！安全・快適街づくり						
所在地	東京都葛飾区	町会加入世帯数	1,150	加入率	66.5%	町会運営メンバー	50人 平均63歳
地域の状況	JR新小岩駅の北東エリアで、海拔ゼロメートル地帯。町会の防災意識が高く、防災設備を多く備え、災害時、専用のアプリや2色の旗の掲出等で住民との連絡手段にも工夫を凝らしている。						
協働の内容	NPO法人、行政、企業、研究者、地域の小学校などと協働し、水害対策に関する様々なプロジェクトを実施。						

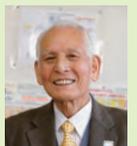
協働のきっかけ

町会の所在する地域は、海拔ゼロメートル地帯という特性から、地域内で連携して訓練を行ったり研究者やNPO法人が町会との連携を持ちかけたりすることが多い地域です。

数十年前、NPO法人ア！安全・快適街づくり（以下、NPO法人）の副理事長と知人づてで知り合い、それから現在まで町会とNPOとの協働が続いています。

回答者

東新小岩七丁目町会
会長
なかがわ えいきゆう
中川 榮久 さん



NPO 法人ア！安全・快適街づくり
理事
やまがみ ただし
山上 忠 さん

取組内容

「輪中会議」への参加

東日本大震災後の2012年に、災害に対する危機感から、NPO法人、東京大学、そして地域の町会が話し合い、葛飾区も加わって「葛飾区新小岩北地区ゼロメートル市街地協議会」が発足し、「輪中会議」という水害対策シンポジウムを定期的を開催することになります。輪中会議では多様なセクターにより活発な議論が交わされ、この地域で様々なプロジェクトが生まれる源泉となっています。

共助支援アプリ「天サイ！まなぶくんⅡ」の開発協力

輪中会議で生まれたプロジェクトの1つが、共助支援アプリ「天サイ！まなぶくんⅡ」の開発です。町会では、災害時に救援要否を示す「赤旗」「白旗」を軒先に掲出する取り組みを行っており、「まなぶくんⅡ」はこのアイデアをアプリ化するものです。アプリ上で救援要請することで雨天時や夜間でも助け合えるのが特長で、現在、町会とNPO法人が連携して実証実験を重ね、リリースを目指しています。

地域や小学校でのゴムボート乗船訓練

町会では、住民参加イベントでも地域連携を進めています。水害時に備えてエンジン付きゴムボートを3艇所有しており、学校のプールや近隣の河川で定期的に乗船訓練を実施しています。「防災は楽しくないと」をモットーに、これまでの訓練参加者は4,000人にのぼります。

協働で工夫したポイント

町会は自らを「モルモット」と捉え、「実験の場」を提供する姿勢を大事にしています。これまでに多くの方々から町会の地域特性に関心を持ち訪ねてきましたが、ほとんど拒むことはしませんでした。それには町会側の受入態勢も必要ですが、普段から町会の活動に若年層を積極的に巻き込むことで、「協働しやすい態勢でいる」ことを意識しています。

ふりかえり（評価）

(1) 事業の実施結果

かつては町会が主体となって水害対策の取り組みを進めていましたが、今はNPO法人の力を借りている部分が大きいです。町会単独だと10年で3歩しか進めないと、協働したことにより1年で10歩も進んだ印象です。「協働」をうまく使い、水害対策という大きな課題の解決につなげていけたらと考えています。

(2) 協働の一連の取組結果

事業準備段階	プログラム遂行	事業終了後
◎	◎	◎

町会活動はボランティアのため単独ではやりきれません。また、NPO・区・専門家等と連携して、大規模水害のリスクに備える様々な取り組みを進められるのは本当にありがたいと思っています。

今後の展開

町会では、引き続き「輪中会議」などを通じてNPO法人等と協働しながら様々なプロジェクトを進めていきたいと考えています。ゴムボート乗船訓練の取り組みは近隣の町会・自治会への普及にも努めているところです。今後も防災訓練に「楽しみ」を加味し、若い世代の参加を促していきたいです。

活動者・参加者の声

活動者

町会役員から、「NPOの方や大学教授から、防災に関する専門的な情報を教えてもらって勉強できるのが楽しいです」とか、「自分がここにいてもいいのか、と思うような話が聞けてとても役立っています」という声が届いています。東新小岩七丁目に転入してこられた方からは、「東新小岩七丁目町会の防災活動を知って、東新小岩七丁目への引っ越しを決めました」という声も聞き、望外の喜びです。

(中川 榮久さん)